

『環境を考慮した学校施設(エコスクール)の今後の推進方策について』 — 低炭素社会における学校づくりの在り方 — (最終報告のポイント)

文教施設企画部施設企画課

学校施設整備指針策定に関する調査研究協力者会議(主査:辻村哲夫 近大姫路大学教育学部長)では、環境を考慮した学校施設づくりについて調査研究を行い、平成21年3月、最終報告を取りまとめた。

背景・学校施設におけるエネルギー消費実態等

1. 我が国の地球温暖化対策の現状

- 京都議定書の目標達成(△6%)
- 長期的な温室効果ガス排出削減(△60~80%)

2. エコスクールの推進

- エコスクールパイロット・モデル事業の実施(794校)
- 耐震化等の改修工事を今後大量に実施

3. エネルギー消費増加につながる環境の変化

- ヒートアイランド現象等に伴う教室温熱環境の悪化
- 学校開放等による多目的利用への対応

学校施設におけるエネルギー消費等の実態

- エネルギー消費原単位は、他の建物に比べ少ない
- 消費エネルギーの大部分は電気、その用途は照明等

学校施設のCO2排出量推計

- 2050年の学校施設からのCO2排出量推計(1990年比)
 - ① 標準的な省エネ対策等だけでは 約10%増と推計
 - ② 最新の環境対策、将来の技術革新による環境対策、電力分野の努力を併せれば、大幅減が可能と推計(今後、コストなども含めて幅広い観点からの議論が必要)

学校施設における地球温暖化対策の課題

エネルギー消費の
効率化

質的改善と
地球温暖化対策

建設時の
環境負荷
の低減

環境教育への
更なる活用

エコスクールの今後の推進方策

低炭素社会実現に向け、全ての学校でエコスクール化を目指す

視点1

既存学校施設の
「エコスクール」づくりを一層推進

視点2

ベンチマークを活用した
効率的な施設運営

視点3

省エネ対策・省CO2対策の実施と
同時に、教室環境等の質的改善

エコスクールの更なる推進



太陽光発電設備の設置



校庭の芝生化

方策
1

エコスクールの教材化、校内の省エネ活動の実践

- ◆ 緑のカーテンなど日常すぐに取り組める取組の推進
- ◆ エネルギー消費量の把握など校内の省エネ活動の実践等

方策
3

重点的なエネルギー利用効率化

- ◆ 地域特性や学校特性を考慮したエコスクール整備の推進
- ◆ 費用対効果の高い改修方法などのデータベース構築
- ◆ エネルギー消費量を計測・表示する機器の導入を検討等

方策
2

省エネルギー効果等の可視化

- ◆ エネルギー消費状況の把握、無駄の有無を点検
- ◆ ベンチマークの整備・提示等

方策
4

太陽光発電など再生可能エネルギーの導入

- ◆ 太陽光や太陽熱、バイオマスなどの導入を積極的に検討
- ◆ 環境教育での活用、地域の先導的役割に留意等